（質問）人々からこれほど馬鹿にされ無視されても、世界中に居るエホバの証人が聖書の伝道活動を愛して楽しいライフワークとしているのは、どうしてだと思いますか？

（回答）そうですね。外から見ると、「なぜそこまでして伝道を続けられるのだろう？」と不思議に感じることがありますよね。

エホバの証人自身の信仰の立場から考えると、いくつかの理由が重なっているのだと思います。

1. **「人に評価されるため」ではないから**

   伝道の目的を、「自分が立派に見られること」ではなく、**エホバへの愛を表すこと**と考えています。
   ですから、褒められればうれしくても、無視されたからといって活動そのものの価値がなくなるわけではありません。

2. **聖書のメッセージそのものを大切にしているから**

   「御国の福音を伝える」ということを、単なる宗教活動ではなく、人にとって価値のあるものを知らせることだと受け止めています。
   そのため、「聞いてもらえるか」だけでなく、**『自分には知らせる責任がある』**という意識があります。

3. **人への愛が動機になっているから**

   これはかなり大きいと思います。
   相手が今は無関心でも、「この人にも良い知らせを知る機会があればいい」と考える。
   つまり、相手から好意を返してもらうことを期待する「親切」ではなく、**見返りを求めない愛**に近いものです。

4. **伝道そのものが信仰を強めるから**

   面白いことに、伝道は「信仰があるからする」だけではありません。
   実際に聖書について話したり、人の悩みを聞いたりすると、自分自身も聖書の価値を再確認します。

   だから、伝道する
   → 聖書について考える
   → エホバへの信頼が深まる
   → もっと伝えたくなる

   という良い循環が生まれます。

5. **「成功」の基準が世間とは違うから**

世間なら、成功とは「何人に認められたか」「どれだけ結果が出たか」になりがちです。

でも、エホバの証人にとっては、**忠実に行ったかどうか**が非常に重要です。

ですから、10 人に話して 9 人に断られても、「9 人に断られた」という結果だけで自分の活動を失敗とは考えません。

そして、もう一つ大きいのは、**仲間とのつながり**だと思います。

世界中の非常に多くの人が同じ聖書の希望を持ち、同じ活動を行っている。そのため、一人で「自分だけがこんなことをしている」と感じにくい。地域を越えて、「自分たちは同じ目的を持っている」という感覚があります。

イエスも、

「あなた方は世のものではありません」

という趣旨のことを弟子たちに語っています。（ヨハネ 15:19）

ですから、**世間から受け入れられないこと自体が、信仰をやめる理由にはならない**という考え方につながります。

ただ、私はもう一つ興味深い点があると思います。

本当に愛しているものは、他人から馬鹿にされても、なかなか嫌いにはならないんですよね。

音楽が好きな人が「そんな音楽、何がいいの？」と言われても音楽をやめないように、エホバや聖書、そして聖書の希望を本当に大切にしている人にとって、伝道は単なる「義務」ではなくなっていく。

むしろ、

「自分が大切にしているものを、人にも知ってほしい」

という自然な気持ちになる。

だからこそ、長年伝道している人の中には、伝道を「仕事」のようにではなく、**人生そのものの楽しみ、ライフワーク**として感じている人がいるのだと思います。

そして個人的には、ここに「人からどう見られるか」から自由になる、とても大きな価値があるように感じます。
人の評価ではなく、エホバとの関係を基準にして生きるからこそ、無視や冷たい反応があっても喜びを失わずにいられる――ということですね。

（質問）素晴らしい回答をありがとうございます。つい貴方にも聖書レッスンを勧めたくなってしまいます。

（回答）ありがとうございます（笑）。そう言っていただけるのは、なんだか嬉しいですね。

もし私が玄関先に立っていたら、

「今日は聖書について少しお話しできればと思いまして……」

と始まるところでしょうか。😄

でも、今のお話には伝道の本質がよく表れている気がします。

「相手を言い負かしたい」のではなく、「自分が大切だと思っている良いものを、ぜひ知ってほしい」。

だからこそ、断られても腹を立てず、無視されても落ち込みすぎず、また次の人に笑顔で話しかけられる。

そして何より、先ほどお話ししたように、**伝道している本人自身が、その希望によって喜びを得ている**。

そう考えると、「なぜ続けられるのか」という問いへの答えは、案外シンプルなのかもしれません。

「伝えなければならないから」だけではなく、「伝えたいほど、自分自身がその希望を大切にしているから」。

これは、人を動かすものとしてかなり強いですね。